

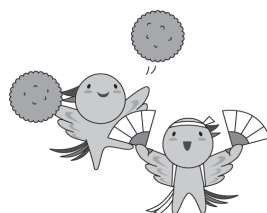
2 失敗から学ぶコーナー

失敗から学ぶコーナー

成功事例の紹介は数あれど、失敗談をまとめたものはあまりないかと思えます。今回、失敗から学ぼうと、あえて各団体にこれまでの活動の中でどのような失敗があったかをお聞きしました。

ここに出てくる話は氷山の一角だと思われませんが、みなさん、失敗から対応策を考え、次の活動に生かしておられることはよくわかりました。多様な地域づくり活動に絶対の方法はなく、失敗なくして前進はないものと思われまます。これらの失敗談がみなさんにとってこれからも果敢にチャレンジしていただくための一助になればと願っています。

見出し	内容
必死のイベントPR	<p>当初イベントのPRがうまくいきませんでした。動員の見込みがとれそうになく、悩みに悩んだ末、商工会議所の会員になりました。新年の名刺交換会にも参加し、活動やイベントをPRしました。</p> <p>また、地域情報ポータルサイトの協力を得て、チラシやチケットを置いてくださるお店をHPに掲載し、ともにハッピーになれる方法をとりました。</p> <p>お店を一軒一軒回りながらの活動は、かなり辛く大変なものではありましたが、温かい応援の声をいただいたり、新たなお店やお客さんをご紹介していただいたりした体験は、貴重な思い出となっています。</p> <p>その後、思い切ってプレスリリースを出し、新聞媒体に取り上げていただくことになりました。近隣のイベントなどにその記事とチラシを持ってPRにも回りました。その姿を見た多くの知り合いが、開催当日、会場内の手伝いなどを積極的にしてくださりとでも感激しました。</p> <p>そのような関わりは今でも続いており、「次回なにかあればお手伝いするからね」とメールを送り続けてくれています。皆さんに心からの感謝です。</p>
前向きな心で自分たちの活動を大切に	<p>失敗は多々ありましたが、「まあ、いいか」と前向きにとらえ、乗り越えてきました。これはメンバーの共通認識です。</p> <p>めげずに関わりを持つこと。他団体との行き違いなどがあっても、割り切って自分たちの活動を大切にしてきたというのが正直なところでは。</p>
素人2人の案内が	<p>地域を案内する時に、小さな、おしゃれな店に団体を連れて行き、温かな主人を怒らせてしまいました。</p> <p>失敗しても、案内経験の少ない素人2人が一生懸命やっているのでは仕方がない、と大目にみていただいています。</p>
タイムラグが危うく大失敗に	<p>市の子育て支援課から誕生した赤ちゃんの訪問依頼が民生委員児童委員に来るのが出生から4カ月後になります。</p> <p>直前に知ることができたため大事にはいたりませんでした。約1カ月前の情報に基づき訪問依頼があることから、既にお亡くなりになっている赤ちゃんに対して、危うくお祝いに伺うところでした。</p>
進行役はみんなの声を	<p>メンバーが討議内容を否定したり、異なった意見を出した時、発言が終わるや否や説得する意見を言って、発言者の発言権を無視していました。</p> <p>年齢層の幅の広さ、人生経験の豊富さ、少なくとも一家の柱であるが故にメンバーの集団であることを考えていなかったためです。</p> <p>まず、発言の内容を飲みこむ。一呼吸置いている間に発言者が発言内容に気付く。メンバー仲間からもそれぞれの思いが出る。協議会を継続する基本の一つであることに気付きました。</p>



見出し	内容
ジェネレーションギャップからニーズの読み違い	<p>ボランティアで高齢者施設へ演奏に行かせていただく機会がありました。年齢層を考えて選曲したつもりが勉強不足…。みなさんからの反応はなく、あるいは苦笑いでした。自分たちのこれがいいと思っていた曲と皆さんの求めていた曲が全く違っていました。</p> <p>その後、また高齢者施設での演奏の依頼をいただきました。前回の反省を生かして、「蛍の光」や「朧月夜」を演奏しました。すると一緒に手拍子をしながら口ずさんで下さいました。</p> <p>皆さんの笑顔を見ることができてとてもうれしかったです。</p> <p>このことがあってから、曲選びを慎重にするようになりました。</p>
忍耐が必要！	<p>行政からの協働の申し込みに積極的に対応しましたが、制度的に無理があり、途中で撤退しました。また、行政が事業委託をする際、委託先の資格と役割分担をどうするか、職員によって解釈が違うことがあり、上部組織の指示も明確でないことがあります。助成事業に積極的に応じましたが、途中で助成金が出ないことになり、対応に苦慮したこともあります。</p> <p>行政は縦割りで総合的に結論が出にくいように思います。自然相手で時間的制約があるときは特にそう感じます。事業実施のための資金は借り入れに頼らざるを得ず、具体的にはこれからの状況です。</p> <p>また、行政が手をこまねく管理放棄地の雑木、雑草の除去作業を申し入れましたが、所有者に景観整備・環境美化の役務提供サービスではないかと疑われ、立ち入り作業の了解に困難を極めました。善意の作業の前に忍耐が必要であり、理解されないのは説明不足であると理解しなければなりません。</p>
学生ボランティアに助けられ	<p>菓子博協賛事業として姫路城に能舞台を設置し、「白鷺城フェスティバルin PEACE」を開催しました。姫路初の全国公募ダンスコンペ、ジャンルを超えた音楽と舞踊の競演、海外アーティストの招聘による城内でのクラシックバレエ、姫路城をテーマとした創作作品発表など、初の試みばかりでした。すべてが手探り状態。資金もなく、地元行政との協働もすんなりとはいかず、やむを得ずすべてのプログラムを1日に凝縮して実施しました。</p> <p>そのため、出演者650名と観客3,000人の大規模となり、主催者側はまったく手が足りず、一般・学生のボランティア約350人に協力いただきました。人数は多く集まったものの細部が皆に伝わらず、書類上は充分準備したはずでしたが、当日は出入り口のチェック機能さえも崩壊状態でした。</p> <p>原因は、①民間だけでは手に負えない大プロジェクトだったこと ②行政の助けを得られなかったこと ③資金不足 ④できる限りの警備を手配し、会員全体で何度も打ち合わせましたが、全体で動いたために各部門のリーダー機能が働かなかったこと ⑤経験不足でマニュアル以外のことに対応できなかったこと、などが考えられます。</p> <p>ありがたいことに一般・学生ボランティアのみなさんの働きで何とか切り抜け、大イベントが成功しました。特に、地元高校や大学生のボランティアが自分たちのできることに責任を持って力を発揮し、問題が生じると率先して謝ったりと、その場その場で助けてくれました。大人たちができなかった事なのにと感激しました。</p> <p>そのうえに「ボランティアは他人のためにするものではなく、自分のためにするものだとつくづく感じました」との感想文が届き、“日本の若者は見捨てたものじゃない”と再度感激しました。若者は態度が悪いなどと思われがちですが、意外にシャイで、社会に必要とされていると感じると力を発揮してくれるのではと期待しています。今後は若者のボランティアのあり方を問いつつ、青少年教育の支援を続けていくつもりです。</p>
余裕のあるスケジュールで	<p>以前にも同じようなイベントに参加させてもらったのですが、大反響で会場に行列ができ、かなり待たせてしまいました。</p> <p>スタッフが食事をする時間もなかったなどの反省を踏まえ、整理券を配り、時間配分を考え、スケジュールに休憩の時間も入れたことにより、スムーズにイベントが進行しました。</p>



見出し	内容
経験不足も工夫でカバー	<p>活動の一環で居酒屋さんの廃食用油の回収を引き受けたものの、1斗缶での持ち帰りでした。2隅が空けられているため、そのままではこぼれるので、現地でポリタンクに移し替えていましたが、これがうまくいかず、いつもこぼして付近は油まみれ。時間もかかり難儀しました。</p> <p>対応策として、移し替えをせず、そのままナイロン袋で包み込み、代車で運ぶことで短時間で回収作業が完了しました。以来、他店からの1斗缶の回収作業もスムーズに運んでいます。経験不足が原因ですが、工夫次第で今から思えば何でもなかったことでした。</p>
広報物のチェックは厳密に	<p>最初に「バリアフリーマップ」を作成した時に、写真と場所が間違っていたのに気付かずそのまま印刷・発行してしまいました。発行後、他人から指摘を受けてわかりました。</p> <p>マップの発行に際して、校正時に皆でチェックしたのですが、初めてのことであり、そのチェックがずさんだったことが原因だと思います。</p> <p>その後、チェックは少なくとも2回以上行うことにしました。</p> <p>さらに、全員が一度に行うのではなく、数人で一度チェックをした後に全員で行うことにし、しかもそれぞれ違う日に行うこととしました。</p>
予算と相談	<p>市場にない創作品を導入しようと、概算見積もりをもらって仮発注しました。実額を出してもらおうと当初見積もりの10倍になり、導入をあきらめたケースがありました。この時は代替品を探して切り抜けました。以後、素材導入に慎重となり、奇抜性を捨てました。</p>
参加費は事前徴収を	<p>イベント性の行事で、事前に参加希望者を募り、当日の必要資材等を準備しているにもかかわらず、蓋を開けてみると、参加者が少なく資材を無駄にしたケースがありました。その後、事前の申し込み時に参加費もいただくことにしました。</p> <p>参加費をいただく行事では、内容のいかんに関わらず、スムーズに受け入れられる上限は1,000円と認識しました。</p>
相手方の窓口を明確に	<p>協働相手先の人事異動で協調性が損なわれるケースがあります。経験上、活動や方針の継続性を強く求め、協働の内容を文書化し、確認するようにしました。</p> <p>また、大学の学生ボランティアの責任者は、先生より学生を窓口にする方がベターです。先生は多忙で、学生は先生まかせなので。</p>
コスモスが教えてくれた計画性	<p>イベントに向けて、コスモスを一生懸命育てていましたが、直前に台風が来て、すべて倒れてしまったことがありました。その時は、メンバー全員で夜遅くまで作業をしてコスモスを立て直しましたが、とても大変でした。</p> <p>水をやりすぎて背が高くなってしまったことも一因だったようですが、もともとその植えていた場所が風の通り道だったことが災いしたようでした。</p> <p>その後は、事業の計画をたてる際に、「やりたいこと」だけを思い描くのではなく、それが、本当に適しているかどうか、ということも配慮するようになりました。</p>
多くの参加者を得る秘訣	<p>親子サミットを200人収容の大ホールで実施しましたが、学校関係者の協力が得られず、ほとんど関係者だけのサミットになってしまいました。その経験から次のことを学び、実践しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参加要請は、自主参加でなく、各種団体を通してある程度、責任出席を求める方法をとる ○他の行事と重複しないように関係機関との調整が必要 ○マスコミ関係者の協力が得られやすい先進的な活動をする ○広報活動として報告書を作成し、関係者に配布 ○相手の立場を理解し、地道に活動を続け、好かれなくてもいいが、嫌われないようにする ○協力を得やすくするため、自治会長名を前面に出す。会長とは、連絡を密にし、協力を得られやすい関係を築く ○協力団体を地道に増やしていく(焦らない。子育て中の親子は多忙と理解する) ○子どもが関心を示す行事を企画する。 ○トライやる・ウィークを受け入れ、学校現場と信頼関係を築く。こどもの目線で接する気持ちを持つ



見出し	内容
信じるべきは自分たちの力	<p>自治会の人員要請をお願いしたときのことでした。各自治会10名の参加要請を行いました。イベント当日は半数にも満たないありさまで、来られた方も自治会の3役の方ばかりでした。組長会などでイベント内容を諮っていただけのものと思っておりましたが、組長会をおこなった形跡もありませんでした。</p> <p>私たちの説明不足もあったかもしれませんが、余計なことだと思われたと考えます。そのような状況の中で、賛同して手助けをしてくれる地域の人が出てきました。スタッフの絆が強くなり、スタッフの中から自治会の役員をあてにせず、自分たちでやっという言葉が出てくるようになりました。私たちのグループはこれで独り立ちできたと感じました。</p>
それぞれできるときに、できる協力を	<p>私たちの活動は、お母さんたち自身が何をやりたいかを意見を出し合い、決定していきます。</p> <p>また、親子での取り組みが基本ですが、最初の頃は子どもが小さくて手がかかり、思うように親子で取り組むことが難しい状況もありましたが、子どもたちも大きくなるにつれ、少しずつ一緒にできるようになってきています。それぞれ活動できる時期とできない時期がある時でも、活動が続けられるように、お互い協力しあってなるべく負担にならないよう乗り越えてきました。</p>
慌てず・ゆっくり・前向きに	<p>あまり意気込んでやると意欲が続かず、思い通りに進まないことが多いです。慌てず、ゆっくり足場を固めてやっていく活動をしたらどうでしょうか。</p> <p>数多くの失敗がありましたが、調整役(コーディネーター)となる人が大切です。失敗の中で、次に繋がるアイデアも湧いてくるものです。デメリットをデメリットとしてとらえるのではなく、メリットに変える発想を持つことやチャンスだととらえることが地域づくりを楽しむことに繋がり、活動が継続すると思います。</p>
誤解は粘り強い説明で解く	<p>高齢者の多い団地ですので、団地内に派閥があります。その解消のために「まちづくり協議会」を発足させましたが、「まちづくり協議会」そのものが一種の派閥とみられてしまいました。誤解を解くため、参加を反対している人、誤解している人に「会」の発足の理由や地域の活性化の思いなどを説明し、参加を求めようとしています。</p>
デジタルカメラを有効活用	<p>出先で有馬関連の書籍を見つけることがあります。購入するときは、有馬文庫の本棚をイメージして、慎重に購入するのですが、所蔵している書籍と同じものなのに買ってしまふときがあります。</p> <p>かと言って蔵書目録一覧を持ち歩くのも重たくて…。そこで、思いついたのが、本棚を撮影したデジカメを持ち歩くことです。いつもデジカメを持ち歩いているので苦にならず、購入時にはデジカメの画像をズームして視覚でチェックできます。収集を目的とされている方にお勧めの方法です。もちろん目録を撮影しておいてもOKです。出先で収集のチャンスを逃さないようにしましょう。</p>
メンバー全員で協議を	<p>平成15年に「耐震工事」に伴う余裕教室を開放するための「改造計画検討委員会」、平成16年に「学校開放運営委員会」を通じて、学校開放に対する考え方がまとめられました。現在の広場の運営も基本的にはその方針に準じたもので、状況により軌道修正しながら運営しています。</p> <p>当初は、町から委嘱された運営委員と広場の推進委員として公募した委員との間で運営方法について意識の差がありました。このため、広場がスタートして4～5カ月間は運営方法についての協議に費やされ、行事の企画やPR活動などの検討が遅れ、前に進めない状況がしばらく続きました。</p> <p>しかし、このときの度重なる協議がお互いの理解を深め、それぞれを認め合う結果につながったと思います。</p> <p>それ以降、活動内容について共通認識を持つため、毎月全委員で意見交換する場を設けています。</p>



見出し	内容
みんなが楽しめるルールづくり	<p>施設の利用について、なるべく「禁止」ルールは作らず、利用者の良識に任せる方針で運営してきましたが、次の「禁止」ルールを作らざるを得ませんでした。</p> <p>① ペット持ち込み禁止(施設内で小便する、子どもが怖がる、噛まれたら大変)</p> <p>② 管理人の指示に従わない者は出入り禁止にする(行儀の悪い子どもへの最後通告を行う。今のところ適用例なし)。</p> <p>パソコンになじみのない人に、パソコンを触ったり、インターネットを経験してもらおうとパソコンを購入しましたが、日常的に使っているのは子どもばかり。当初、コープ店舗内(あいあいひろば相生館)にパソコンを置き、インターネットを使えるようにしていましたが、有害サイトへのアクセス例が見られたため、管理者の目の届く空き店舗(あいあいひろばおお)でインターネットするように変更しました。</p>
人材発掘とその力を活かせる組織の仕掛けづくり	<p>失敗したことはありませんが、地域づくりは外部からのいくら優れた指導者、アドバイザーを得ても、自らの地域の持つエンパワーメントの取り組みをしない限り、一夜の花火を打ち上げて終了します。</p> <p>自治会や女性会・老人会など既成の団体にも、地域を動かせる力がありますが、協議会はそれぞれの役員で構成するだけではお決まりの事業消化で終わります。団体の中にある有能な力と、地域の中にある人材を発掘し、その人たちの力を生かせるような組織の仕掛けが重要です。</p>
著作権等の所在は明確に	<p>会を退会したメンバーと著作権のことでもめました。</p> <p>家庭の事情で田舎に帰るとのことだったので、退会後の教材の扱いについて話し合いはしませんでした。ところが、同じような会を立ち上げて当会の教材やキャラクターを使用されました。話し合いを重ね、当会の教材や教育プログラムを他の団体で使用しないようにしてもらいたい旨を伝えました。それ以降、会則に退会時の措置について追記しました。</p>
楽しみと実益が入会を呼ぶ	<p>まちづくりのための花の専門的講習会を開催していましたが、終了後は会に入会いただけのものと考えていました。最初は無料で講習を受けるだけの人もいました。この講習はリーダーの養成を目的にしましたが、私たちの思いが伝わらないことから、先生が講習の一つとして育苗まで踏み込まれました。それが受講生の楽しさと実益に変わり、卒業後に入会していただけるようになりました。</p>
ミスは貴重な学びの機会	<p>小さなミスはいっぱいあって書ききれません。次にはもっとうまくいく、ミスはその貴重な学習です。それで、今もいっぱい失敗しています。</p>
ポスターは見た目が大事！	<p>自主講座の広報をするために、手探りでポスターやチラシを作成してきましたが、最初のうちはあれもこれも情報をたくさん詰め込み過ぎて、今思うとあまりインパクトのない、文字の多いポスターを作っていました。</p> <p>詳しい情報は直接尋ねてもらえばいいことなので、やはり、広報のためには、パッとみて目がいく、印象に残る、視覚に訴えるものを作らなければならないとようやく気付きました。</p>
電話番号はNTT転送システムを活用	<p>マンパワーが少ないので、事務所に誰も出ていない日は、せっかく問い合わせなどの電話がかかってきても、留守番電話での対応しかできませんでした。何度かけても留守電になっていると、せっかくのアクセスを逃し、信用も失ってしまいます。講座の受付中はメンバーが順番に事務所に詰めたりしましたが、一日いても電話の鳴らない日もあり、無駄足になることも度々でした。</p> <p>数年前、電話の転送システムがあることを知り、すぐにNTTに依頼しました。事務所に掛かってきた電話がメンバーの携帯電話に転送されるようになり、以後、(担当は大変ですが)多くの電話に直接対応することができるようになりました。費用も月に1000円程度で、大きな負担にはなりません。</p>
身体に悪いプランニングは避けましょう！	<p>思いつきでイベントにさまざまな内容を盛り込みすぎて、結果当日、自分自身が走り回らなければならなくなり、「倒れそう」になったことが数知れず。身体に悪いプランニングは避けましょう。</p>



見出し	内容
円滑な活動のための資格取得	<p>事業を開始するにあたり、私たちは当初旅行業を登録せずに事業を行うことを考えていました。しかし、旅行業に登録しないとチケットやホテルの手配が難しく、結果的にお客様の負担になってしまうことが多々ありました。ひとえに私たちが旅行に対して無知であったことが原因だと考えています。</p> <p>そこで、法人の資産を見直し、旅行業を取得することにしました。取得してからはチケットやホテルの手配、パッケージツアーを作ることも可能になり、お客様にとってより便利で、最適な旅行を提案できていると思います。</p>
身の丈にあった活動拠点	<p>神戸市の便利な場所に活動拠点を構え、人材もボランティアで募り、順調なスタートをしましたが、資金面やボランティアに頼ることが多く、長続きせず活動拠点多転居せざるを得ませんでした。</p> <p>ようやく現在の地に転居して再出発しました。こうして身の丈にあった拠点で活動をはじめました。また、ボランティアに頼るだけでは長続きしません。各層、各界から社会的支援があれば今後大きな展望をもって進められると思います。</p>
あきらめないこと！	<p>失敗というものではありませんが、地域団体の協力が得られないため、活動ができなかったことがありました。協力というより反対されました。</p> <p>そういう時に弱気を出さず、活動をやりとおすことで成功することができました。何事も諦めず、こつこつと活動するとよい結果が生まれます。</p>
認識のずれから起こったすれ違い	<p>活動場所を提供するという申し出がありました。長い間、空き家だったところなので、スタッフ総出で掃除をし、必要な道具を揃えたところで、提供できないと断られました。双方でいろいろ打ち合わせをしたはずなのに、お互いの考えが通じてなく、貸借関係の契約書もきちんと取り交わしていませんでした。</p> <p>ただ、提供者は善意の人であったので関係を絶つことはしませんでした。その後、家は別の形で利用させてもらい、今回は正式に賃貸契約もかわしました。その方とは今も良好な関係が保たれています。</p>
定例の講座は決まった場所で	<p>通年で毎月1回開催する講座があったのですが、担当者が忙しくて2カ月前の予約を忘れることもあり、会場が先月と違う場合も多い状況でした。そのため、毎月数名がちがう会場に行ってしまう、非常に遅れて参加することになり、受付で怒りをぶつける参加者も出て、スタッフは非常に困りました。</p> <p>最近では、ボランティアの方をお願いして、会場の予約だけを担当してもらい、できるだけ参加者に混乱のないように努めています。</p>
海外では、融通のきく企画と余裕のあるスケジュールで	<p>インドや日本以外の国では、予期せぬことが多く起こります。あらかじめ、細かいスケジュールを立てておいても、その通りに行ったためしはありません。やることになっていたイベントが突然キャンセルになったり、その代わりに飛び入りのまたとないチャンスが飛び込んできたり、いつもハラハラドキドキです。</p> <p>大まかな予定は立てていくことはできますが、向こうでは現地の流れに乗って、融通性を保ち、いつでも何でもやる覚悟がいることを学びました。</p> <p>また健康面でも、現地についてすぐ、予定の詰まったスケジュールにしない方がいいことも学びました。体が現地の気候や空気に慣れ、旅の疲れからある程度癒されるのに、最低3日から1週間かかります。少し余裕のあるスケジュールにすることの大切さも学びました。病気になったのでは、あまり多くのことはできないからです。外国で一番多いのは発熱や下痢です。初めは、食べ物、飲み物にも神経質なほど気をつけた方が無難です。</p>
人員の確保	<p>時期により、イベント行事が重なる場合があり、人員確保ができませんでした。記録写真を残しておいた方が良く考えます。</p>
ムリをせず、さっさと中止に	<p>無理しないグループなので、忘れられないような大きな失敗もありません。“あかん”と感じたらさっさと止めてしまいますから！</p>
効果は長い目で	<p>まちづくりや地域の課題解決は、短期間で進むものではなく、すぐに効果が表れなくても、失敗と決めつけるものではないと考えています。よっていまだ自己評価する時期ではないと考えます。</p>